

事例 1

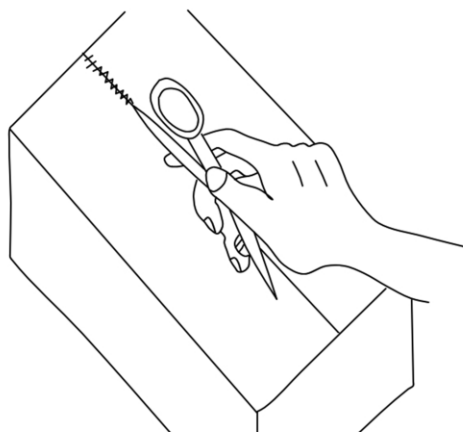
出張中、昼食を終えて公用車に戻ろうとした際、凍結した駐車場で足を滑らせて転倒し、左半身を地面に打ち肋骨を骨折した。



冬場に非常に多いのが凍結路面による転倒事故です。急いでいたり、履き物が悪かったりすると、年齢に関係なく、転倒することがありますので、時間に余裕を持ってゆっくり歩幅を狭くして歩きましょう。

事例 2

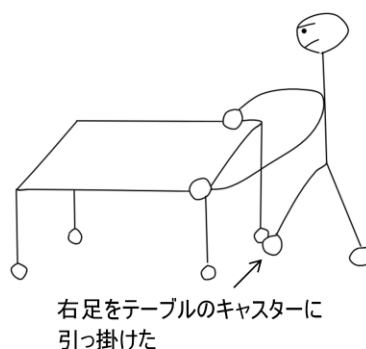
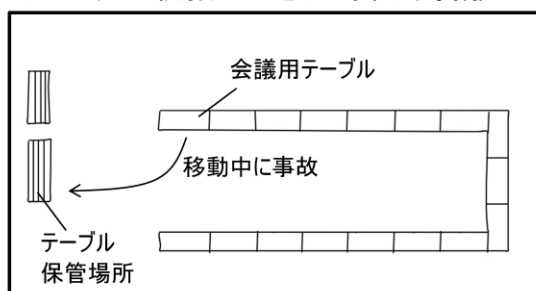
ガムテープの貼ってある段ボール箱を開けようとハサミを開き、指を刃に添えながら開けていた。開けていた最中にハサミを持っていた手の肘が後ろの棚にぶつかり、刃を添えていた手を切り負傷した。



なるべくゆとりのある作業スペースを選び、危険性の少ない用具で作業を行いましょう。

事例 3

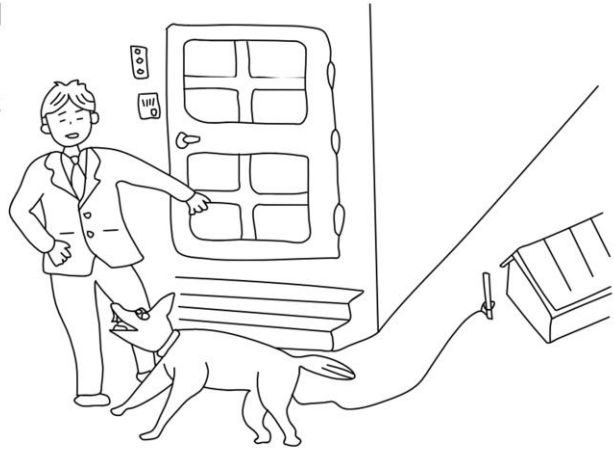
会議用テーブルを片付けようと会議室後方に移動中、テーブルのキャスターに足の親指の爪を引っ掛け、剥離した。



会議用テーブルのように普段あまり使用しない物については、取扱いが不慣れなためか、テーブルやイスを折りたたむ際に手を挟んだりすることも多いです。

事例 1

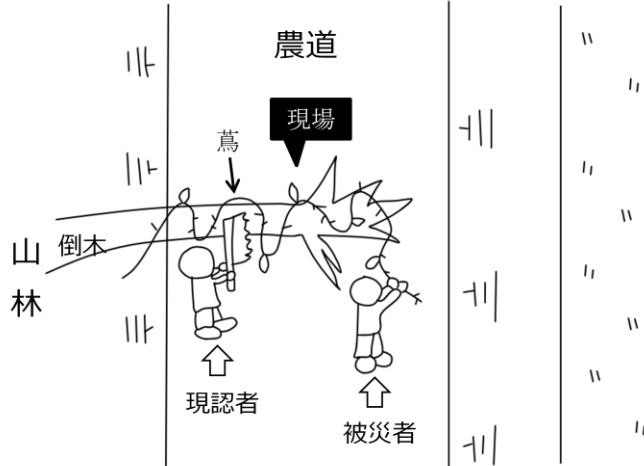
税金の滞納整理のために滞納者宅を訪問した際、背後から飼い犬が吠えながら突進してきたため、振り払おうとしたが、右膝内側を咬まれた。



初めて訪問する家については、犬が繋がれている場所が分からないため、相当警戒していても逃げ切れないことがあるようです。

事例 2

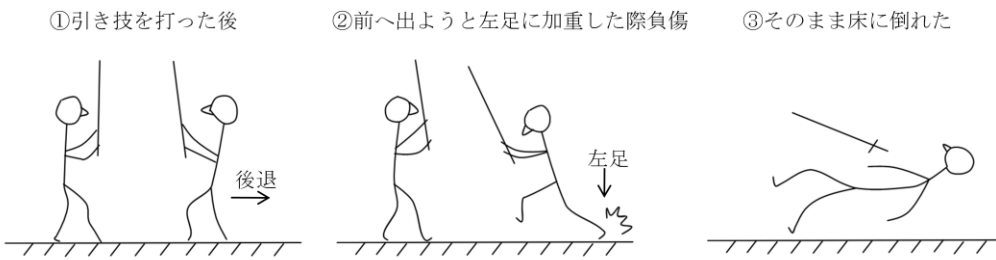
農道に車の走行の支障となる倒木があったため、撤去しようとしたところ、倒木に蔦が絡まっており、次の日に顔面・両腕・両手掌等にかゆみ、発疹、発赤が生じた。



できるだけ肌を出さないように帽子、手袋、長袖を着用するなど服装に注意していれば、かなり防げたのではないかと思います。

事例 1

剣道部の指導の際、引き技を打った後、前へ出ようと左足に加重した時にアキレス腱を断裂した。

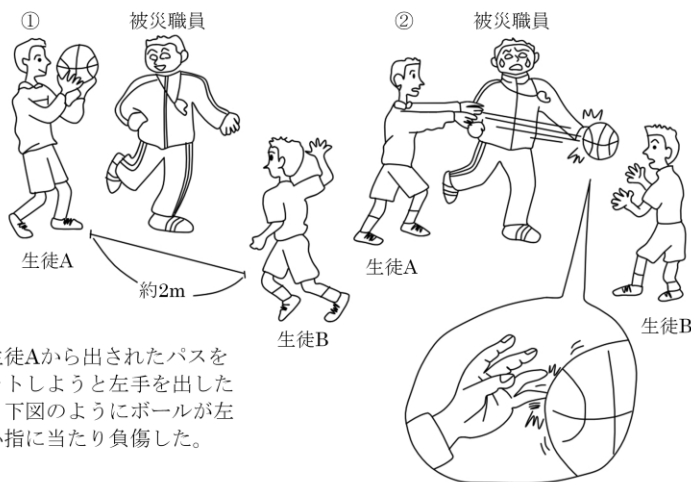


事例 2

体育の授業中、バスケットボールの試合を行い、相手のパスをカットしようとした際にボールが左手小指に直撃し、脱臼した。

①被災職員は生徒AからBへと出されるパスをカットしようとしていた。

②生徒Aから出されたパスをカットしようとした際、下図のようにボールが左手小指に当たり負傷した。

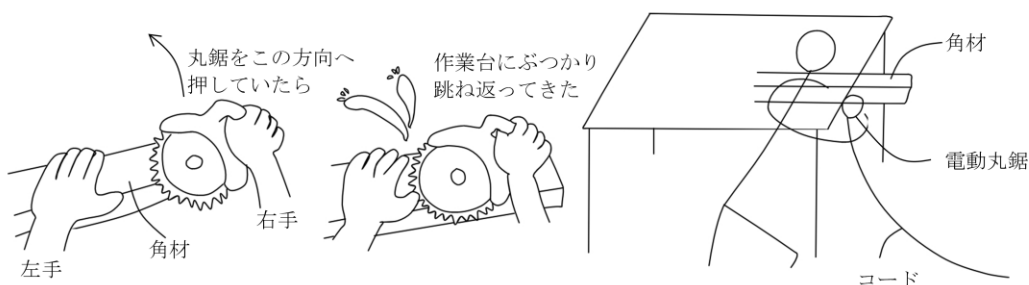


スポーツ関連のケガのほとんどはスポーツを始める前のストレッチ不足が原因のようです。また、その効果を過信しすぎて故障を起こすケースもあるので、スポーツ中でも合間を見つけてはストレッチをすることをお勧めします。なお、ウェイトオーバーはケガに結びつく大きな要因となるため、日頃から体重調整のための食生活、運動を心掛けましょう。

【動力機械編】

事例 1

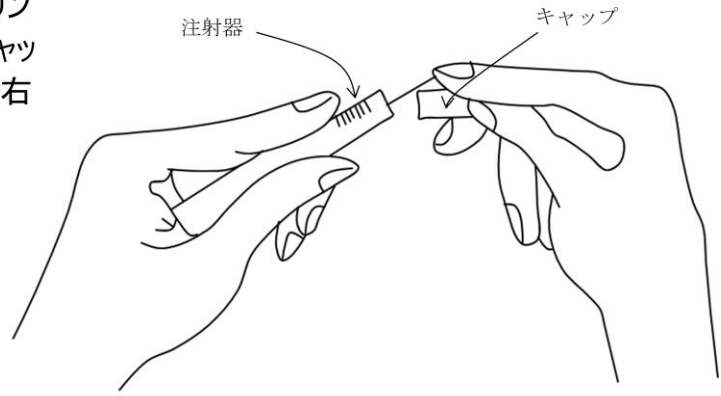
電動丸鋸で木材切断中、電動丸鋸の刃が作業台にあたり、跳ね上がった反動で左手親指を負傷した。



動力機械による事故はほとんどの場合、その機械を使い慣れているにもかかわらず、ちょっとした不注意や突発的なアクシデントにより負傷しているようです。

事例 1

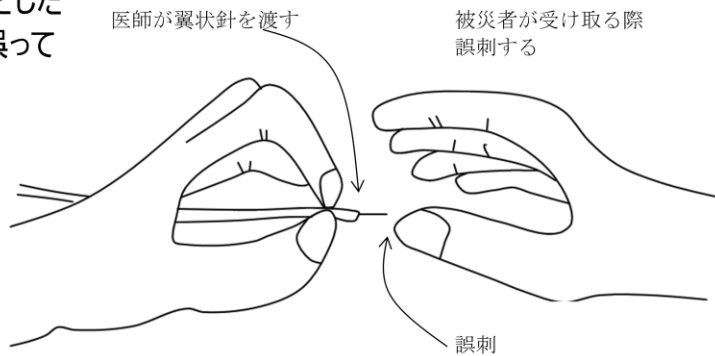
HCV患者にインシュリン
施行後、注射器にリキャッ
プしようとした際、誤って右
手第2指に刺した。



針刺し事故の原因において、相変わらず一番多いのはリキャップによる事故です。リキャップを行わないことを徹底すれば針刺し事故は大幅に減少します。そのためには、処置室や採血室には十分な数の専用廃棄容器を用意し、また、携帯用の廃棄容器を携行するなどリキャップせずに済む環境を整えることが大切です。

事例 2

医師が抜針した翼状針を
看護師に手渡ししようとした
ところ、受け取る時に誤って
右手第1指に刺した。



使用後の注射針を手渡しするのは大変危険ですので避けましょう。どうしても渡す必要がある場合はトレイなどに置き、それを取り上げるのが良いと思われます。また、共同作業者との「声かけ」も重要な防止策です。

★針刺し事故を防止する15のポイント★

- | | |
|--------------------------------|---------------------------|
| 1 すべての血液・体液は感染源になる | 9 携帯用の廃棄容器を携行する |
| 2 リキャップしない | 10 専用の廃棄容器は満杯になる前に交換する |
| 3 1患者1トレイを励行する | 11 作業に適した明るさを確保する |
| 4 安全注射針を利用する | 12 ゆとりのある作業スペースを確保する |
| 5 針を持ったまま、他の動作を行わない（同時操作回避の原則） | 13 採血や点滴業務が集中することを避ける |
| 6 翼状針は翼部分をしっかり持って作業する | 14 患者の状態によっては共同作業者の協力を求める |
| 7 使用後の注射器は手渡ししない | 15 あわてないで冷静に取り組む（ひと呼吸の原則） |
| 8 使用後の注射器は放置しないで使用者がすぐに廃棄する | |

事例 1

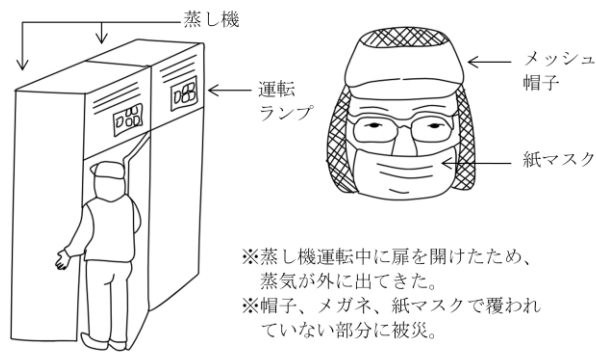
ハンドミキサーの電源コードを抜き忘れたまま洗浄した後、左手に本体を持ち、右手でミキサー刃を取付中、誤ってスイッチに触れ、刃が回転し、指を裂傷した。



左母指の裂傷については、ハンドミキサーが動いた反動で、ミキサー本体を左手から離してしまい、そのときにミキサーの刃と接触したことによる。

事例 2

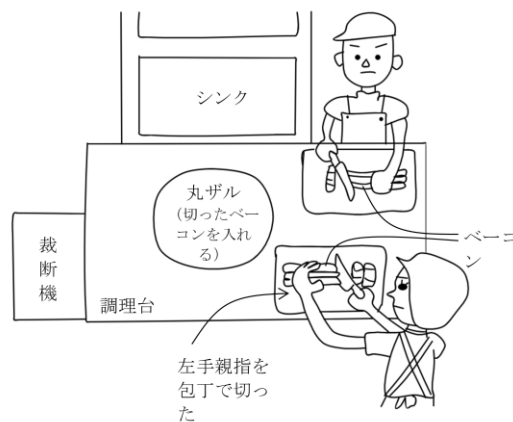
蒸し機の運転ランプを確認するのを忘れ、運転中の蒸し機の扉を開けてしまったため、蒸気が顔にかかり、やけどした。



※蒸し機運転中に扉を開けたため、蒸気が外に出てきた。
※帽子、メガネ、紙マスクで覆われていない部分に被災。

事例 3

ベーコンを左手で押さえながら切っている作業中、ベーコンより左手親指が前に出ていることに気付かず、包丁で親指先端を切った。



★調理員の公務災害防止のための5つのポイント★

1 切創の防止

(注意力を持続させ、作業点から目をそらさない。包丁を持ったまま別の作業を行わない。)

2 火傷の防止

(点火位置や点火方法を変える。高温部分にカバーをする。油や熱湯がはねやすい場所に衝立を設ける。適切な器具、保護具を着用する。)

3 転倒の防止

(床に段差や傾斜がない、乾いている所とぬれている所が混在していないことが望ましい。機械設備の突出物による転倒防止のため目立つ表示を施す。)

4 皮膚障害の防止

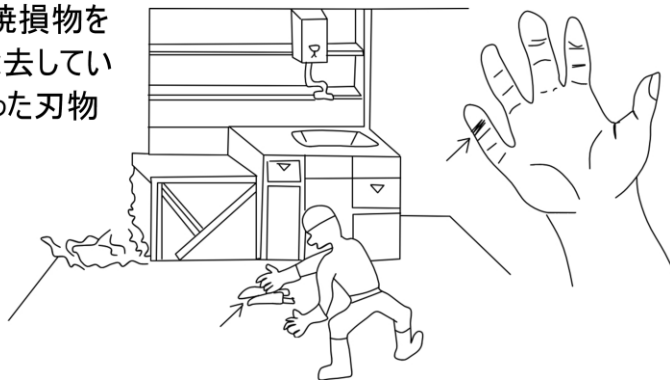
(保護手袋の活用、作業後にクリームを塗るなど接触皮膚炎を予防する。水温に注意を払う。)

5 再発防止対策

(災害の発生後に原因究明、対策を実施する。)

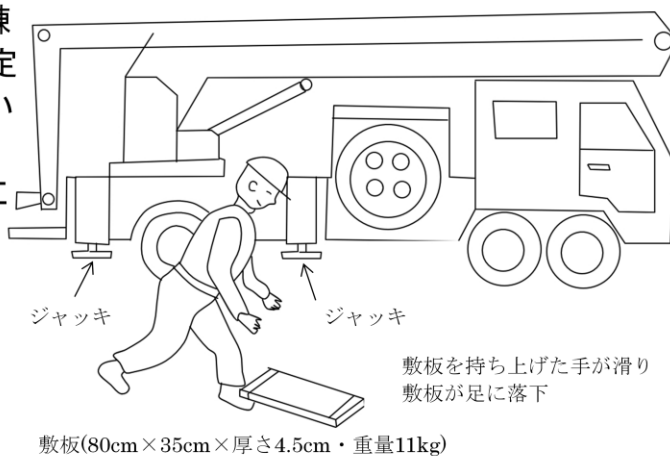
事例 1

火災現場で火災原因調査中に台所部分に堆積していた焼損物を軍手とゴム手袋をはめて除去していたところ、焼損物の中にあつた刃物で右手小指を負傷した。



事例 2

高所放水車の操作訓練を実施した後、車両を固定するジャッキの下に敷いていた敷板を収納しようと持ち上げた際、手を滑らせ足に落下させて負傷した。



★消防職員の公務災害防止のための4つのポイント★

1 教育・訓練

(どの教育訓練を誰に対して、どのタイミングで実施するのか長期的な視野でカリキュラムを検討する。)

2 資機材・装備

(資機材の新規導入や改良により公務災害を防ぐことはできないか予算の問題等も考慮しつつ検討する。)

3 強化・徹底

(知識・訓練は繰り返し強化していかなければ時間の経過とともに薄れ、習熟度が劣化していくため、知識・技能の維持、向上を奨励し、安全意識を高める。)

4 組織の安全管理

(個々人の知識・技能の向上だけではなく、組織構成員全員が一丸となって安全に導くための体制、制度を整備する。)

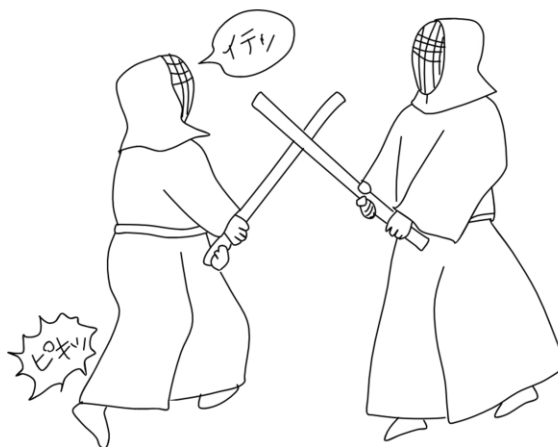
事例 1

柔道の乱取り稽古中、相手に背負い投げの技をかけた際、相手を背負ったままの状態前方に崩れ、右肩を畳に強打したことにより負傷した。



事例 2

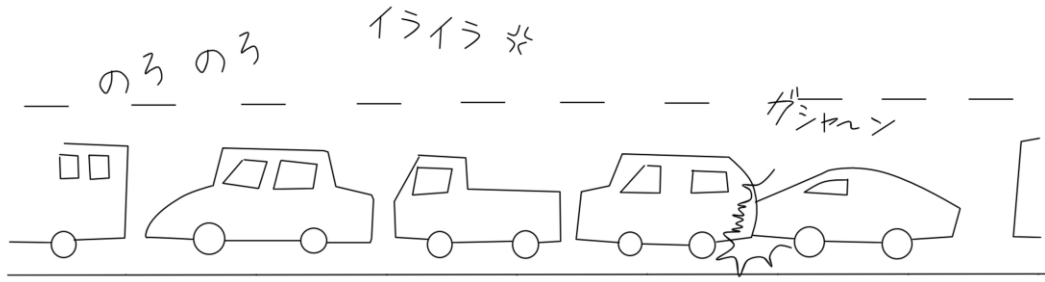
剣道の試合中、右足を踏み出した際、軸足としていた左足の動きが遅れて、つっぱりすぎたため、ふくらはぎを負傷した



警察官の公務災害で最も多いのは術科訓練中の災害です。柔道、剣道、逮捕術等、業務に備えて訓練しているわけですが、アキレス腱断裂や捻挫など非常にケガが多い状況です。事前のストレッチを入念に行い、災害防止に努めましょう。

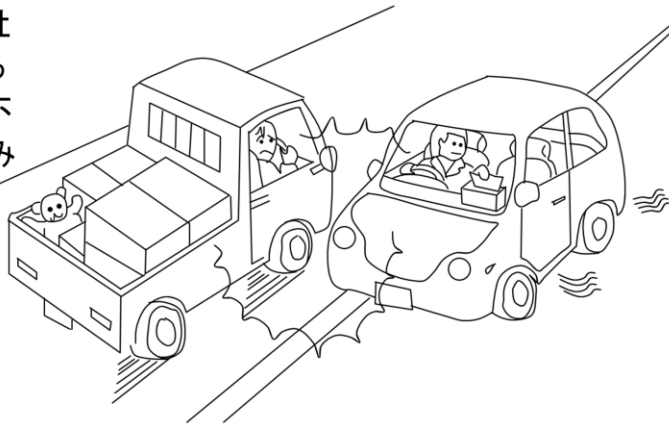
事例 1

自家用車で出勤途中、渋滞している道路で停車中に後続車が止まりきれずに追突した。当時路面は凍結していた。



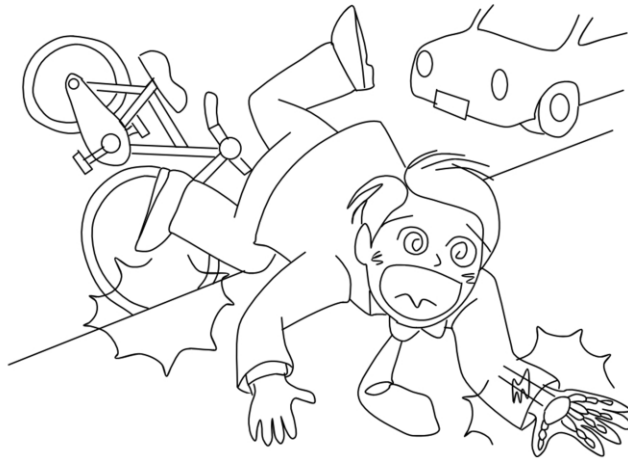
事例 2

自家用車で退勤途中、社内のティッシュペーパーを取ろうと目をそらしたため、前方不注意となり、対向車線にはみ出し、軽トラックと衝突した。



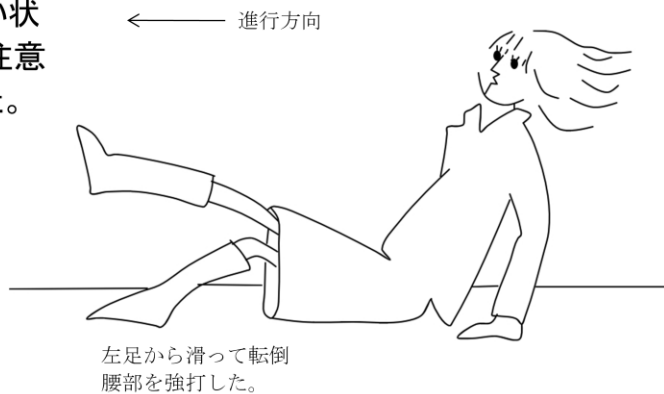
事例 1

自転車で出勤途中、車道から歩道に乗り上げようとしたところ、段差で前輪がスリップし転倒した際、左手を地面に突いて負傷した。



事例 1

徒歩で出勤途中、歩道が除雪作業後の滑りやすい状態になっていたことから、注意していたが滑って転倒した。



本県のような雪国の通勤災害の特徴は、冬場に一気に通勤災害が増加することです。相当注意していても車のスリップや転倒などが非常に多く、また打ちどころによっては、かなり重傷になっています。雪の影響により冬場の道路は渋滞や通行不能など、予測出来ない事態も多いため、時間にゆとりを持って通勤することを心掛けましょう。